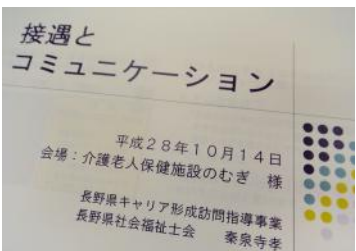


勉強会「接遇とコミュニケーション」について

昨年10月14日に接遇についての勉強会を開きました。安曇野市社協にて地域福祉に関する業務に携わっている秦泉寺氏に講師としてお越しいただきました。かねてからご利用者・ご家族への接遇をどう改善させていくかが、施設として一つのテーマになっていました。単に言語としてのコミュニケーションだけではなく、表情や目線も相手を感じ得る重要なメッセージだということを意識することが重要であると再確認できました。

今後このような学びの場も取り入れつつ、接遇の向上に努めていきたいと思います。

(支援相談員 横田)



勉強会「ノロウイルスの発生時の対応」について

11月1日、感染食中毒対策委員会が中心となり、勉強会を行いました。

ノロウイルスの特徴・症状・感染経路の講義と感染発生時の対応マニュアルについて説明の後、吐物の処理方法の実技を行いました。2グループに分かれて、まず委員が実技デモを行い参加者と検討しながらグループワークを行いました。

今回の勉強会で、日頃から利用者の行動の特徴や癖、パターン等を把握しておき、利用者の特徴を鑑みながらその人に合った対応や、吐物処理、隔離、解除の判断等臨機応変に対応していく事、日頃の手洗いの徹底や衛生管理が大切だという事を学びました。

毎年この時期に勉強会を行っていますが、職員ひとり一人が常に危機感を持って行動し、いざというときに対応できるようにしていかなければいけないし、このような勉強会を毎年続けていく事が大事だと思いました。

(介護員 上平)



皆様からの意見

＊お義母さんの面会時、職員の皆様が明るく挨拶をしてくれて、とても良い雰囲気施設の施設です。お義母さんとても幸せだと思えます。

＊ありがとうございます。このようないい意見がいただき、職員も張り合いが出ます。まだまだ、至らない点もありますが、今後も皆様のご期待に沿うよう努めて参りますので、お気づきの事がありましたら、ご意見をお寄せください。

編集後記

毎年、1月に発行していた『号』が遅れてしまいお詫び申し上げます。今後も皆様に楽しんでいただけるような会報の発行に努めて参りますので、よろしくお願いたします。(副施設長 奥原)

年頭のご挨拶



社会福祉法人 雄仁会
常務理事 小澤 基一

のむぎ理念

ともにより添い ともに笑い
「人として生きる」を支えます

はじめ、訪問看護、訪問リハビリとの連携を図る取組みが求められると思います。こうした連携は担当する職員はもとより法人の方針としての取組みが求められることですのでこれからの大きな課題と考えます。

最後になりましたが今年も施設の運営にご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



作業レク

定期的に行っている作品作りについてご紹介いたします。2階では火曜日・木曜日、3階では月曜日・水曜日・金曜日に午後4時から1時間程度作品作りを行っています。内容は折り紙を使った手芸、ちぎり絵、クロスステッチ等様々です。1人で取り組んでいる方もおりますし、2、3人の小集団で取り組んでいる方もおります。中には1つの作品を一年以上の期間をかけて完成させる方もおります。皆さんの集中力や根気強さにいつも驚かされます。

(作業療法士 樋口)

介護老人保健施設

のむぎ VOL.11

2017.1.30発行

あけましておめでとうございます。旧年中は高齢者の介護事故、係る職員の暴力事件等、同業施設での事件がテレビ・新聞で度々報道され、気になる一年だったと思います。人手不足、人材不足と兎角言われる業種ですが、大切なご家族をお預かりする施設として職員一同、今一度初心に帰り考え直すとともに、職場環境の整備に法人としても一層の取組みが求められていると思います。施設を管理監督する立場としてご利用される方はもちろん、ご家族にも安心してお使いいただける施設づくりに取組んで参りたいと思います。

こここのところ国の方針で在宅復帰に取組むことが介護老人保健施設の至生命題になっておりますが、平行して安心して自宅でもご家族が看護、介護ができる環境が整った上でのことです。でこうした協力ができる様、病院をは



社会福祉法人 雄仁会

〒390-1401 長野県松本市波田9802-1

TEL.(0263)-92-7870 FAX.(0263)-92-8088

http://www.yujin-nomugi.or.jp/

E-mail: info@yujin-nomugi.or.jp





12月14日、クリスマス会を行いました。今回は2階職員によるハンドベルの演奏・手品・2人羽織り、3階職員による職員の歌（美空ひばりのお祭りマンボ）にあわせての踊り、男性職員合同による組体操を行いました。ご利用者も楽しめたようで、こちらの出し物に手を叩いて喜ばれておられました。

そして、最後にサンタさんよりご利用者さまに職員の手作りのカレンダーのプレゼントがありました。サンタさんの楽しいお話で、ご利用者、大爆笑でのクリスマス会のしめになりました。（介護員 上嶋）



波田中学生が福祉交流

11月4日に中学3年生が交流に来てくださいました。実施するまでに施設を見学にあい、利用者さんの生活を見学し、どのように交流しようかと検討し本番を迎えました。当日は、歌を披露した後、各利用者と関わり、交流を深めました。ひ孫のようだと笑顔で話が弾んでいました。子供達の唄を聞いたり、ふれあう事は利用者に元気をくださいますので、大歓迎です。



県実地指導監査受審査



昨年12月7日、県の担当指導監3名による実地指導監査が行われました。監査は数年に一度、施設の運営が適正に行われているかを定期的にチェックするしくみです。当施設では3年ぶりの監査となりました。主な目的は、サービスの質の確保と向上、ご利用者の尊厳の保持の取組が組織的に取り組まれているかや介護報酬請求が適正になされているか等多岐に渡ります。今回は改善すべき指摘事項はありませんでしたが、情報交換の場ともなり、更にサービスの質の向上を目指した施設運営につなげていく取り組みの示唆をいただきました。今後も老健施設としての社会的役割と責任を果たして行くよう職員一丸となって努めて行こうと身を引き締めました。（副施設長 奥原）

梓川高校生 福祉職場体験

学生の感想

11月29日・30日に3名が職場体験を行いました。一日目、戸惑っていた生徒さんが、二日目には、挨拶の声も大きくなり、利用者さんに向き合っていました。こんな感想を寄せられました。

2日間の体験で感じたことは、人を相手にする仕事の大変さとやりがいです。利用者の方とコミュニケーションを取る時、何を話したらいいかわからず、大変でしたが、利用者の方が楽しそうに話してくれたり、ありがとうと言ってもらえた時はやりがいを感じました。

2日間の福祉体験で福祉の仕事のやりがいを深く学ぶ事が出来ました。自分自身も楽しい仕事だと思っていたのですが、立っているのがやっとで、ここで働いている人たちはさすがだと感じました。福祉の仕事は深く学び、自分自身が成長する事が出来たと思うので、良かったと思います。

看護学生の実習 5グループ終了

平成28年度、松本短期大学看護学科3年生の老年看護学実習を5月～10月にかけて5グループ引き受けました。1グループ1週間、老健施設における看護師の役割を学びます。実習最後の金曜日は、アクティビティケアを実施します。短い間に施設のお年寄りを理解し、楽しく参加できる企画を考案し、デイ利用の皆さんに提供します。若者らしいユニークな発想で楽しさを創りだします。実習生を受ける事は、職員も刺激を受け、施設サービスの質の向上にもつながると信じていますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。（副施設長 奥原）

